

がんばれ、しのぶさん

昭和六十二年 度 三年 女児

「さようなら。」と言って、いつもならとび出すはずです。

けれども、さか上がりができないしのぶさんをまっっているのです。しばらくして、しのぶさんが来て、

「てつぼうしていこう。」と言ったので、わたしは、そろばんのじゆくへ行かなければならないと思ったのですが、やることにしました。

さっそく、しのぶさんはてつぼうにとびつき、さか上がりを始めました。一回目は、足をバタバタさせてできなかったので、わたしは、

「足、バタバタさせない方がいいよ。」と言いました。しのぶさんは、

「うん。」と小さな声で返事しました。

二回目は、足を持ち上げてやりました。わたしが少しさわっただけなのに、くるっと回りました。

「おおう。」と、しのぶさんが思わずへんな声を出しました。

「もう少しだ。がんばれ。」と、そばで見ていたゆみさんがはげましてくれます。

今度は、しのぶさんが一人でやってみることにしました。しのぶさんは、思いつきり足をけりました。できればいいなど見ていたら、足がてつぼうについたのにできませんでした。わたしは、

「おっしいなあ。もう少し、もう少しだよ。」と言いました。しのぶさんは、くやしいだろうなあと思って、わたしは、

「わたし、やるからしっかり見てて。」と、しのぶさんに言いました。

「うん。」今度は、大きい声で返事をしました。

「足、こうすなんよ。」と言って、くるっと回りました。てつぼうにもものところがちよくせつあたって、いたくなりしました。そこで、わたしは、

「運動着にきがえてくる。まってでの。」と言って、教室へもどりました。ふと時計を見ると、三時半はとつくにすぎています。あっ、そろばんじゆくへ行かなければと思いましたが、しのぶさんができるまではやめたくありません。そばで見ていた人たちは帰って行ってしまいました。わたし

しは、また、しのぶさんに、

「足、こうけっての、ここまで来たらおなかにぐっと力を入れて。」と言って、やって見せました。しのぶさんもわたしのようによってみるのですが、なかなか回れません。しのぶさんが足を上げたとき、わたしは、足をおし上げてやりました。なん回もなん回もかわりばんこにやりました。てつぼうをにぎると、だんだん手がいたくなってきました。手にまめができていたのです。がまんしててつぼうをにぎろうとしたら、てつぼうにさわっただけでいたいです。今日はやめようかなと思ったとき、しのぶさんが、

「あと、やめようか。」と言いました。

わたしは、ランドセンをせおい、よたよたと歩き始めました。そのとたんに、あせがどっとふき出しました。しのぶさんも、いっぱい出たあせをふいています。なんだか元気がなさそうです。もう少しでできるのに、きつとできなかつたからだろうなあと思いました。わたしは、しのぶさんに、

「くらくくなったね。もっとやりたかったのに。」と言いました。

しのぶさんができるようになるまで、またいっしょにや

りたいと思います。